

「業務コンサルタントと共同で全社挙げてカイゼン活動に取り組み、作業の無駄をデータで解析。作業効率アップにつなげた」と話すのは金属部品製造シズテック（関市池尻）の堀部哲夫社長（64）。
競技用自転車や釣り具に使

近況

「アルミ、チタン、マグネシウム部品の加工、研磨、表面処理を行う。「世界的に自転車需要が増えて追い風が吹いているが、これまではコスト面で厳しかった。カイゼンでコストダウンも実現し、量産にも対応できる」と喜ぶ。

作業見直し、ムダなくす

国の支援事業を活用し昨年2月から取り組んだカイゼンでは、工程間の時間の無駄と在庫のムラをなくして製品の流れをスムーズに。その結果、約2割の作業改善を実現した。「仕事のやり方を見直すことで、社員の意識も向上した。まだ見直しの余地はあるはず」と力を込める。



は決して多くなく、需要が高まった際のネットワークになることを心配している」と述べ、周辺

だけに、海外と法令が異なる点がトラブルを招いた可能性もある。トヨタは生活面の支

がどこの国へ行っても安心して働ける環境づくりが必要だ」と強調する声もトヨタ社内から聞かれる。